



西袋第二小学校特色ある学校づくりサポート事業



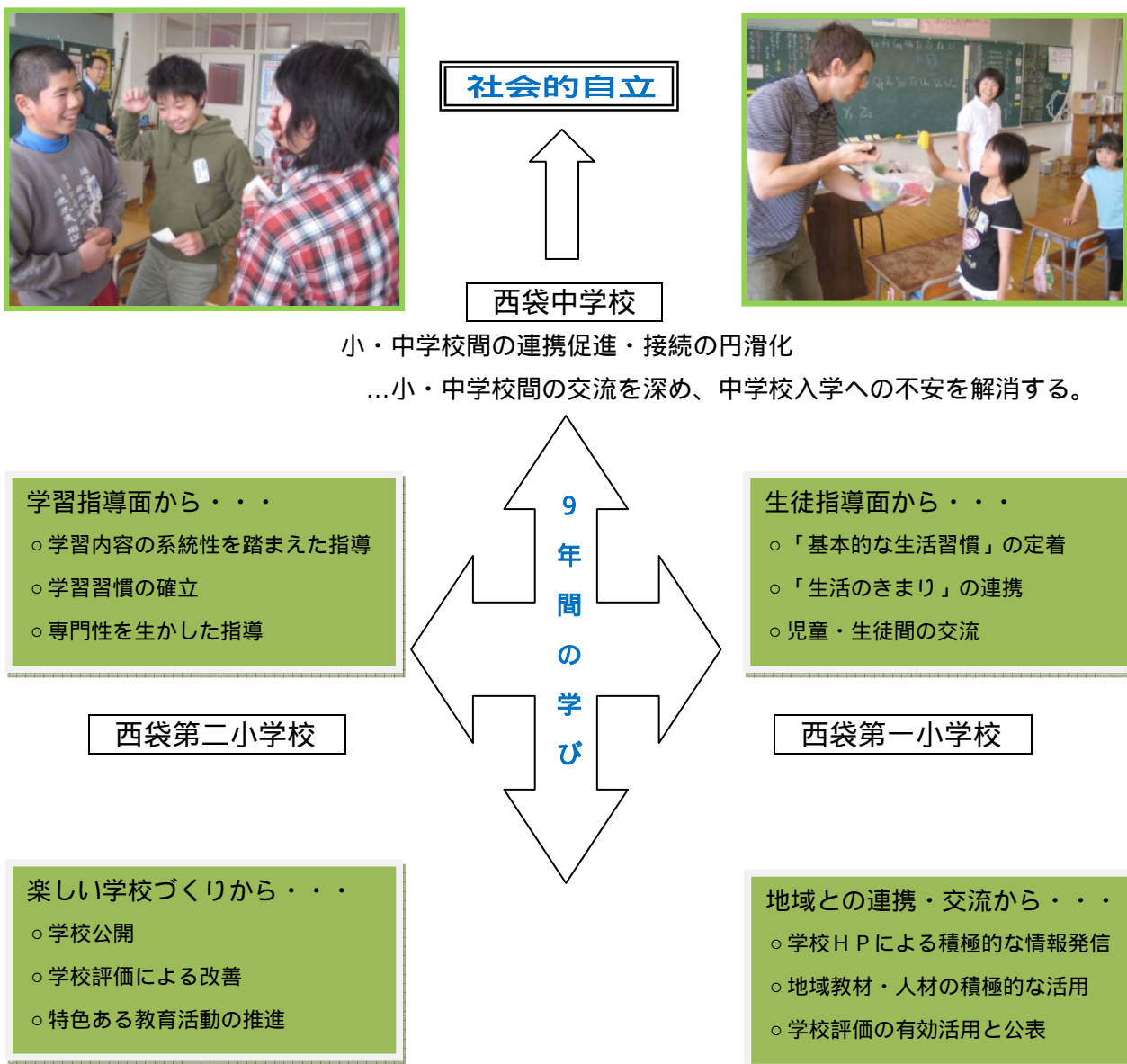
1 事業の名称 児童一人ひとりに確かな学力を培うための小・中連携並びに小・小連携の充実（第2年次）

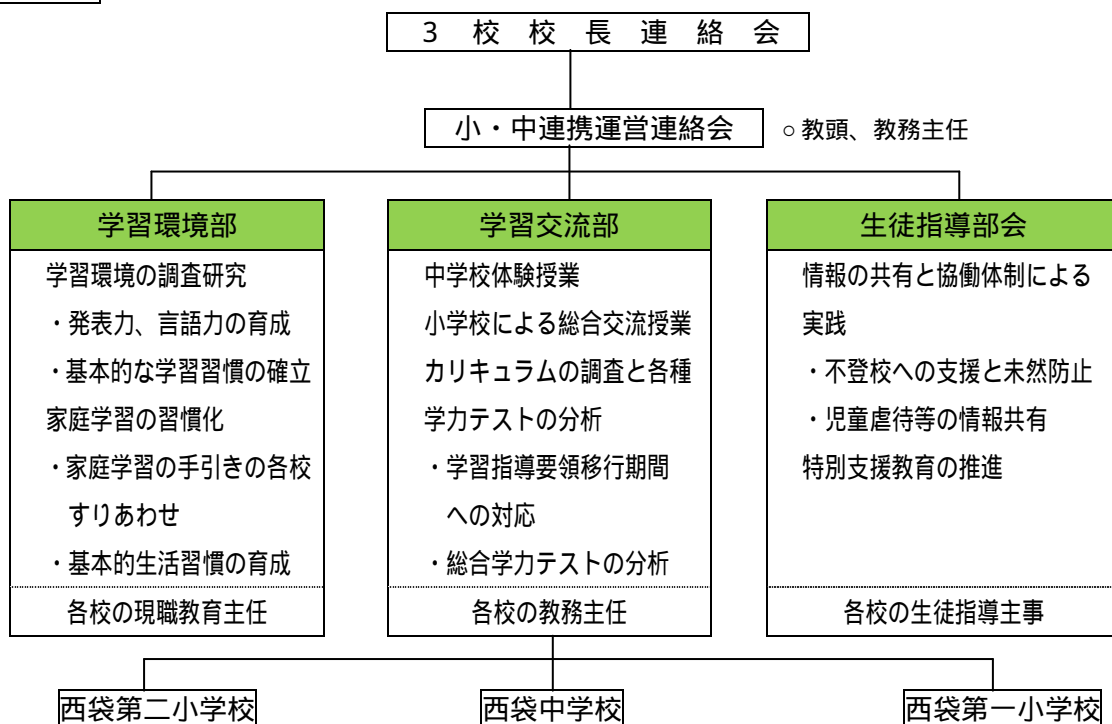
2 事業の目的

基本的な考え方

- 児童生徒の義務教育9年間を見通した継続的な学習指導や生徒指導を円滑に進めるために、小中学校の連携を促進していく。
- 西袋地区小・中連携並びに小・小連携のもとに、西袋地区内の教育の向上を図るため組織や運営のあり方について研究改善する。
- 小・中連携担当者を中心として、各小中学校で実践する教育活動について平成23年度学習指導要領全面実施に向けての共通的な取り組みができるよう研究実践する。

構 想 図





3 事業の実際

(1) 具体的な取り組み

学 期	小 学 校	中 学 校
1 学期	児童一人ひとりの学力実態の分析	「基礎基本の学力定着についての取り組み」
	第1回小中連携連絡会議（4/24）	・各校の取り組みの意見交流、課題の明確化 ・今後の活動の確認
	小中連携学習環境部会（6/9）	・学習習慣確立、家庭学習の習慣化のための9年間の取り組み ・授業研究相互交流の計画
	授業研究相互交流	授業研究相互交流
	MCL（メディア・コントロール・ライフ）推進運動（6/14） ・西袋地区小中学校及び保護者そして地域が一体となり、メディアについて理解を深め、メディアを主体的にコントロールすることにより、児童生徒の健全育成、家庭学習時間の確保、家族のつながり・地域コミュニティの進展を図るようにした。	
	外国語活動授業参観（6/24） ・中学校教諭来校	
	生徒指導特別委員会（6/29）	
2 学期	小中連携授業公開 6年算数科「合同」（『新学習指導要領』移行措置内容）（7/10）	
	小中連携授業公開 2年算数科「たし算とひき算のひっ算」（9/9）	
	授業研究相互交流 小小連携合同授業（10/20）西一小にて	授業研究相互交流 小中連携授業（授業・部活動体験）（11/30）
	小中連携授業公開 1年算数科「ひきざん」（11/19）	
3 学期	小中連携授業公開 4年算数科「面積のはかり方とあらわし方」（1/14）	
	小小連携合同授業（1/28）西一小にて	
	小中連携英語の授業（2/17）	
	外国語活動授業参観（2/19）	
	第2回小中連携連絡会議（2/24）	・今年度の事業の評価・改善について ・来年度教育課程への位置づけについて
	研究のまとめ、児童一人ひとりの学力の分析	
	中学校との引き継ぎ、事務連絡（3/18）	道徳の授業参観

小人数のよさを生かした個に応じた指導

- 一人ひとりに応じたきめ細かな指導のため、児童の実態の的確な把握に努めた。
 - ・ 学力テスト、日々の小テスト、ワークテストの実施、分析
 - ・ 長期的、短期的な両面から学力を分析
- 各学年でつきたい力(基礎・基本)を明確にし、継続的な指導にあたった。
- 確かな学力を身につけるため、授業の充実を図る。
 - ・ 1人2回の授業研究、事後研究
 - ・ 自己課題解決シートに基づく授業分析



小・小、小・中での指導者の交流・合同授業

- 部会研修での成果を校内に広め、教育実践の充実に生かした。
- 各学校間の授業研究を公開し、指導者同士の相互交流を深めた。
- 授業者同士の事前の打ち合わせを充実させ、小・小並びに小・中教師の交流に努めた。

朝のチャレンジタイムの充実と学力補充のための時間の確保、地域人材の積極的な活用

- 算数科を中心に学力向上のための個別指導に取り組んだ。(授業で学んだことがわかる・できるための習熟の時間、授業で学んだことを確実に定着させるための時間の充実)
- 新書を随時紹介し、読書への意欲を高めるとともに、朝の読書の時間では各学年に応じた本にチャレンジさせた。
- 保護者・地域の学習ボランティアと連携し、安全面の配慮や児童の主体的な活動を促す活動の充実に努めた。



- ・ 地域探検、スーパークリーン作戦、祖父母参観
- ・ 情報の積極的な発信のための学校ホームページの充実
(<http://www.nishibukuro2-e.fks.ed.jp/>)

・ 自然災害時、緊急時の下校指導への協力体制の確立
生活習慣づくりと家庭学習の充実

- 基本的な生活習慣を見直し、家庭と連携した生活づくりのための具体的な取り組みを行った。
 - ・ 地域と連動したMCL(メディアコントロールライフ)推進大会の開催
 - ・ 児童会を中心とした月1回のMCL推進運動の展開と評価
- 家庭学習の習慣化に努めた。
 - ・ 「家庭学習の手引き」や学習相談の効果的な活用

中学校の英語学習へのスムーズな移行を図るための外国語活動の取り組み

- 小学校間のカリキュラムの共有を目指した活動を展開した。
 - ・ 外国語活動の授業参観、事後の話し合い、情報交換
- ALTを中心とした外国語活動の充実を図った。
 - ・ 授業参観等の授業公開



小・中連携を意図した教育課程づくり

- 小学校間の交流授業、中学校での体験授業・部活動体験を実施した。
- 中学校英語教師による小学校での英語出前授業を実施した。

(1)成果 ●●●

- 小学校間において授業体験等を行い、中学進学前の交流を図ることにより、進学への意欲や悩みを共有することができた。
- 規模の違う小学校同士の交流により、中学校入学後の生活にスムーズにとけあうような下地が築けた。
- 日常の授業や給食、清掃、休み時間等で児童同士が共に活動できたことが交流として意義深かった。
- 小学生が、中学校の集会活動や部活動を体験することにより、中学校生活への理解を深め、中学進学への意欲を高めることができた。

- 授業研究会を通して教師相互の連携を深めることで、指導の在り方を振り返り、課題を明らかにすることができた。
- 交流を通して児童生徒理解を深めることができた。また、それぞれの学校の実態や特色をより身近に理解することができた。
- 校内での授業研究を充実させることで、児童一人ひとりに寄り添った実践を行うことができた。

- MCL推進運動を児童会が中心となり継続して実践することにより、時間の使い方が上手になり、自主学習にも取り組む児童も増えてきた。

- 小・中相互の授業の公開、相互参観を通じた意見交換の場を設けることで、互いの見地から指導の改善と課題の意識化が図られ、日々の実践に生かすことができた。

[illegible]

- 9年間の学習内容の系統性まで突っ込んだ実践までには至らなかった。日々の活動の充実を図っている各学校において、小・小連携、小・中連携のための時間確保が第一の悩みでもある。
- 今までの実践を振り返り、「何が実施可能か」「何が継続可能か」等、反省・評価をし、実のある実践としていきたい。

